

安倍内閣不信任決議案

右の議案を提出する。

平成二十八年五月三十一日

提出者

岡田 克也

穀田 恵二

玉城 デニー

照屋 寛徳

賛成者

吉川元	小沢一郎	藤野保史	清水忠史	赤嶺政賢	鷺尾英一郎	本村賢太郎	升田世喜男	福田昭夫	西村智奈美	津村啓介	鈴木義弘	佐々木隆博	玄葉光一郎	木内孝胤	岡本充功	緒方林太郎	石関貴史	安住淳
		堀内照文	塩川鉄也	池内さおり	渡辺周	山尾志桜里	松田直久	古川元久	野田佳彦	辻元清美	田島一成	坂本祐之輔	小宮山泰子	吉良州司	奥野総一郎	大串博志	泉健太	阿部知子
		真島省三	島津幸広	梅村さえこ		山井和則	松野頼久	古本伸一郎	初鹿明博	寺田学	田嶋要	重徳和彦	小山展弘	黄川田徹	落合貴之	大島敦	今井雅人	青柳陽一郎
		宮本岳志	田村貴昭	大平喜信		柚木道義	松原仁	細野豪志	原口一博	中島克仁	高井崇志	階猛	後藤祐一	菊田真紀子	柿沢未途	大西健介	江田憲司	赤松広隆
		宮本徹	高橋千鶴子	笠井亮		横路孝弘	水戸将史	馬淵澄夫	伴野豊	中根康浩	高木義明	篠原豪	郡和子	岸本周平	金子恵美	大畠章宏	枝野幸男	荒井聰
		本村伸子	畑野君枝	斉藤和子		横山博幸	宮崎岳志	前原誠司	平野博文	長島昭久	武正公一	篠原孝	近藤昭一	北神圭朗	神山洋介	太田和美	小川淳也	井坂信彦
			畠山和也	志位和夫		笠浩史	村岡敏英	牧義夫	福島伸享	長妻昭	玉木雄一郎	鈴木克昌	近藤洋介	黒岩宇洋	菅直人	逢坂誠二	小熊慎司	井出庸生

議員提出議案

議案件名 安倍内閣不信任決議案

民進党

国会対策委員長 安住

淳  


平成二十八年五月三十一日

議員提出議案

議案件名 安倍内閣不信任決議案

日本共産党

国会対策委員長

国会議員団事務局長

榎田

棚橋

恵

裕



平成二十八年五月三十一日

議員提出議案

議案件名 安倍内閣不信任決議案

生活の党と山本太郎となかまたち

国会対策委員長 玉城デニ



平成二十八年五月三十一日

議員提出議案

議案件名 安倍内閣不信任決議案

社会民主党・市民連合

国会対策委員長 照屋寛徳

事務局長 伊藤学

平成二十八年五月三十一日

安倍内閣不信任決議

本院は、安倍内閣を信任せず。

右決議する。

## 理由

第一に、立憲主義と平和主義を否定する安倍内閣の姿勢は、断じて容認するわけにはいかない。安倍政権は昨年、多くの憲法学者が違憲と指摘する安保法制を、審議を尽くさないままに強行採決したばかりか、わが国が戦後歩んできた道を踏み外し、憲法改悪を推し進めようとしている。

第二に、安倍内閣の経済失政の責任は極めて重大である。アベノミクスの失敗がもたらしたものは、国民生活の破壊と格差、貧困の拡大である。とりわけ、先進国の中でも最悪の水準と言われる「子どもの貧困」や待機児童問題など、将来世代に対する安倍内閣の対応は冷淡そのものである。その上、G7伊勢志摩サミットにおいて、自らの経済失政を新興国経済の問題にすり替えるという詭弁は、わが国にとって恥ずべきものと言うほかない。

第三に、安倍内閣は、国民の声に耳を傾けない強権的な政治を続けている。安倍内閣は昨年、憲法に基づく臨時国会の開会要求を黙殺、TPP交渉過程も全面黒塗りにするなど、国会に対する責任を放棄している。また、安倍内閣では、政治とカネの問題で憲政史上かつてないほど閣僚の辞任が相次いだ。口利き疑惑が浮上した甘利氏を三ヶ月以上にわたって隠匿し、ひたすら事件の風化を待つばかりである。さらには沖縄問題への対応について、民意に背く姿勢に終始している。

以上のとおり、安倍内閣には、もはや政権運営を担う資格はないことは明白である。これが、本決議案を提出する理由である。



安倍内閣不信任決議案

右の議案は委員会の審査を省略されたい。

平成二十八年五月三十一日

提出者 岡田克



(外三名)

衆議院議長 大島理森殿